

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2872300658		
法人名	社会福祉法人 優和福祉会		
事業所名	グループホーム 「ゆうわの家」		
所在地	三木市与呂木683-397 (電話)0794-86-1212		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	平成20年6月13日

【情報提供票より】 (20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算	9.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2、3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	31,000 円
敷金	有 (500,000) 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3	要介護2	8		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 87.3 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときわ病院 ・ 佐本歯科
---------	--------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた自然豊かな環境の中、和風を基調とし、ゆったり広々とした共有空間を確保すると共に、1人ひとりの居住空間と自由な暮らしを大切に、「ハッピー」に過ごせる楽しい家を目指して職員全員で日々の介護に取り組んでいる。又、地域社会の一員として生活できるように地域との交流事業を積極的に計画開催し、地域との協力関係を強化し地域に根ざしたホームとしての役割を担えるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	昨年の評価で指摘を受けた口腔衛生について、今年度歯科衛生士会に依頼し衛生士に来てもらい、利用者一人一人の口腔検診のあと職員に対しても口腔ケアの指導をしてもらい、日々の口腔ケアを継続出来る様に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回は、職員1人ひとりに全項目についての聞き取りはおこなっていないが、日々の業務の役割の中で自己評価した結果を聞き、管理者・ケアマネージャー・介護計画作成担当者が中心になって作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議の構成メンバーは包括支援センター・民生委員・家族の代表2名・入居者・管理者で、奇数月に開催している。ホームを知っていただくために、映像や写真を活用してホームの活動状況を報告している。メンバーに感想や意見をきいてサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	月初めに担当者が前の月の様子を文書に書いて送付している。毎日来て散歩をする家族もある。ホームの行事に参加を呼びかけたり、ホームで企画立案して家族会を開催している。年1回実施している家族アンケートには家族の立場からの要望が記入されている。職員には連絡会議で伝達をし、出席出来ない職員には会議録を回覧し、印をもらっている
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	近隣の保育園とは年度初めに仲良しプランとして立てられる、年間計画に基づいてクリスマスコンサートなど交流を持っている。地域に老人会・自治会はないが、施設の開設記念日には地域に声かけを参加してもらっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「愛情と根気と忍耐」「母なるやさしさ」を基本として地域や自然に触れ合いながら、1人ひとりの空間と自由な生活を大切に、穏やかな共同生活が送れるように取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、職員には、毎朝ミーティングにおいて唱和し共有を図っている。又、入職時新人オリエンテーションにて、管理者が分かりやすく説明している。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神和保育園より年度初めに届けられる年間行事に参加し園児とのふれあいの機会を持っている。また、園児を施設のクリスマスコンサートに招待するなど交流の機会を持っている。施設の開設記念日には地域に声かけを参加していただいている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回は、職員1人ひとりに全項目についての聞き取りは行っていないが、日々の業務で気付いた事や自己評価した結果などの意見を聞き、管理者・ケアマネージャー・介護計画作成担当者が中心になって作成した。昨年指摘を受けた口腔衛生に関しては、衛生士に来てもらい、職員が指導を受けて日々の口腔ケアを継続している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>構成メンバーは包括支援センター・民生委員・家族の代表2名・入居者・管理者で、奇数月に開催している。ホームを知っていただくために、映像や写真を活用してホームの活動状況を報告している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>相談は電話を利用してよく交流している。介護保険認定審査会の審査員をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>毎月定期的に利用者一人ひとりの様子をお便りにして、担当職員が報告し、家族の来所にも個々の状態を詳細に説明している。法人機関誌も年2回発行している。ホーム行事への参加の呼びかけ、家族会の開催など積極的な働きかけが行われている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満・要望は年1回家族アンケート調査を行い、アンケート内容を職員に伝達し、意見を受け止めサービスの向上に活かしている。不参加の職員には会議録の回覧により徹底を図っている		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぎ馴染みの職員との関係を継続する為に月1回、管理者と職員とで話し合いの機会を持ちお互いの意見の交換の場としている。又、年1回は職員への意識調査のアンケートを行い、移動の希望や仕事の悩みなどについて聞いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は施設独自で行い、オリエンテーション後OJTにより業務が円滑に行われるように指導している。外部研修に出席しやすい体制を整え参加を勧めている。法人内研修・施設内研修も実施している。		人材を育成する上で、年間を通じての内部、外部研修の計画を立て定期的な研修の継続が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内4箇所あるグループホームとの連絡会などは現在のところ設置していないが、管理者間での交流の機会はある。		職員間の交流の機会を持ち、相互の見学会・現場実習・勉強会等を通して職員の育成が図られることを期待する。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に見学に来てもらい雰囲気に馴染んでもらったり、職員が自宅等を訪問して、本人・家族の意向や要望を聴き、不安を取り除き、スムーズに入所に移行できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入所時にKOMI方式の一部分を活用した基本情報シートを作成している。入所後基本情報を基に日常の関わりの中で利用者が出来ること・したい事を把握し、調理・食事の後片付け等職員と共に行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報を参考に日々接していく中で、利用者の思い、希望を汲み取りながら支援している。意思の表出の少ない利用者へは家族からの情報を基に本人への働きかけをしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はケアマネジャー・計画作成者・担当職員・家族が集まり、本人の意向や希望を聴き、家族の要望や職員の意見を取り入れ作成している。又、包括的自立支援プログラムを活用し薬・食事・口腔・入浴・体調などについてのチェック表を作成し、ケース記録に毎日記載して問題点を見出し、介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者全員の介護計画に共通項目として、入浴・食事・体調管理・口腔機能を課題にあげ、日々のケース記録にケアの内容を記録し、モニタリング表に基づいて定期的に行っている。6ヶ月に1回、変化がある時は随時評価・見直しを行っている。		日々のケアの中で細かく記録しケアプランの項目について見直しは出来ているが、1ヶ月に1回は目を通し、ほぼ3ヶ月に1回は見直しをする事が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり、訪問看護ステーションと契約を交わし24時間の専門的ケアの対応を行っている。又、利用者1人ひとりの主治医が月1~2回は往診に訪れるなど、健康管理を心がけ安心した生活が継続できるように支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ごとに以前からのかかりつけ医のまま継続した医療を受けている。又、認知症については、囑託の専門医と連携を図り、確定診断を希望する家族に専門病院を紹介するなどしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に「見取りについての指針」を説明し、重度化した場合の同意書を交わすと共に、併設施設への利用申込書を提出してもらっている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>「はっぴい通信」への写真掲載や行事の際の写真の展示などについても家族に了承を得ている。職員とは、入職時に個人情報保護の誓約書を交わしている。入浴や排泄の際などの声かけに対してもさりげない対応を心がけている。</p>		<p>法人内で作成した個人情報保護マニュアルに沿って年1回は研修会を開き、再確認を促す事を期待する。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日のスケジュールは決めているが、起床・就寝時間など一人ひとりのペースに合わせて対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設施設の委託する業者の給食を利用しているが、週1回は利用者の希望を聞きメニューを決めて食材を買いに行き調理している。また、調理の準備などを手伝ってもらったり、誕生会のケーキ作りなど楽しみごとになるよう工夫している。昼・夕食の主食と汁物を作り、朝は総てホームで調理をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、月・水・金の10時から15時と決めているが、利用者1人ひとりのタイミングを見計らって声かけし、時間、スタッフとの相性などを考えて対応し、希望に応じた入浴ができるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントした1人ひとりの生活歴や日々の暮らしの中から、その人の出きることを見つけて出し、個々の能力に応じて、洗濯干し・取り入れ、シーツたたみ・共有空間の掃除などをやりがいを持って出きるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は外の空気に触れるように、天気の良い日は敷地内の東屋や花壇まで行ったり、近くの公園に出かけるようにしている。又、天気が悪い日でも施設のベランダを1周したり、併設施設の喫茶に行く等外に出る機会を多く持てるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は安全確認が困難な時を除いて日中は施錠していない。ホーム内は自由に行き来できるようにしている。職員は利用者が外に出たい様子や気配を察知し、さりげなく声かけをするなどして一緒に出かけ、閉塞感を持たないような暮らしを支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練を春と秋の年2回、昼夜想定して利用者と一緒にしているが地震や風水害などの災害時の避難訓練についても実施する事が望ましい。法人内の「緊急時対応マニュアル」を作成している。		地域との協力体制は高齢化が進んでいる為なかなか実現できていないが、運営推進会議等での働きかけを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回チェックし、ライフチャートに記録、状態の変化を見極め体調管理に心がけている。主治医の指示で塩分制限や食事制限の有る利用者については、連絡ノートに記載、全職員が共有し個別の対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高くゆったりとした造りで、窓からの自然の光を採り入れた明るい雰囲気居心地の良い場所となっている。5月人形などの季節を感じるものの出きる置物や飾り付けがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、トイレと洗面、クローゼットが取り付けられている以外は利用者が以前から使っていたベットやたんすなど馴染みの品々が置かれ、1人ひとりの暮らしぶりに合わせた安心して過ごせる場所になっている。		

 は、重点項目。